

○高部啓子* 鍛冶綾子** 服部ゆみ枝** 松山容子**

(*大妻女大短大, **大妻女大家政学部)

目的: 內衣の外衣化、アウター化は、ブラウススーツや古くは小袖の表着化など服装史の中で繰り返し見られる現象である。昨夏若い女性の間で大流行となったキャミソールドレスはまさに下着のアウター化と見える。このような現象が生じる背景には、人々の衣服に対する意識の変化があると考えられる。すなわち、若い女性と中高年女性との間ではキャミソールドレスに対する意識や社会的規範が異なっていると推測される。そこで、若年男女と中高年男女の4グループを対象に、様々な角度からキャミソールドレス及び下着に対する意識を調査し、性差や年代差の比較から意識の変化をもたらす要因について検討を試みた。

研究方法: 質問紙調査法によるアンケート調査を1998年8月～10月に実施した。質問内容は、下着のファッション性やアウター化に対する賛否、下着に求める視覚的イメージ、スリップの着用頻度、キャミソールドレスサンプル写真に対する意識などである。若年男子100部、若年女子102部、中高年男子111部、中高年女子106部、合計419部の有効調査票を、単純集計、クロス集計、因子分析、多重比較により検討した。

結果: (1)キャミソールドレスのサンプル写真については、中高年女子は多くのサンプルを下着と見なすのに対し、若年男女は殆どを下着と見なさない傾向にあり、著しい世代差が認められた。(2)下着のファッション性やアウター化について、若年層では肯定的な、中高年層では否定的な意見を持ち、有意な年代差が認められた。(3)下着に求める視覚的イメージについて4グループ一括の因子分析を行ったところ、8つの因子が抽出された。因子得点のグループごとの平均値を比較すると、若年女子が他の3グループと大きく異なり、下着に派手さ、スポーティ感、セクシーさ、フェミニン感覚の要素を必要と考えていた。